

【第5回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録】

4 議事

(1) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)に係る意見募集(パブリックコメント)について

■資料①の2段目について

石松委員「サービスエリアに出品する場合は許可が要る。以前、山江サービスエリアに出したことがあるが、なかなか通らなかった。それはどういう風になっているのか？」

事務局「全国でも道の駅をサービスエリアに設置されている事例はあるようだが、定住自立圏構想や複数の自治体、広域行政組合での運営には多くの高度な課題が生じると考えられる。今後、圏域市町村長で構成する定住自立圏推進協議会にも報告の上、協議・検討を進めていく。今の御質問についてだが、具体的な手続き等はまだはっきり分かっていない。パブリックコメントでこういった御意見があるが、それに対して委員の皆様から『こうした方がいいのではないかな？』とか『これは〇〇だから難しい。』、『ほかの自治体でもこういう風に取り組んでいる。』など、私たちの知識以外の御意見を御参考にさせて欲しい。というのが今日の趣旨。意見を頂きながら、どのように進めていけば良いか？というのを私どもの方で考えていきたい。といった意味で、皆様からの御意見を賜りたい。」

石松委員「私はこの取組みは良いなと思った。人吉球磨の農産物を販売したいということで、全ての町村 20 人くらいで取組んだことがあったので、こういったものが実現したら非常に良いことだなと思った。」

下田委員「意見というか質問。道の駅というものは、全国的に見ても、成功事例も失敗事例もいろいろあって、出したからといって必ず成功するわけではないと思う。道の駅とは直接関わらないと思うが、人吉温泉観光協会が窓口になって、福岡で物を売ったことがある。経理的にプラスにしていけるのはものすごく難しく、別の事情もあって今は撤退している。あさぎり町も福岡市にお店を出していたかと思うが、その後どういう経過を辿ったのか教えて欲しい。」

あさぎり町「今お尋ねの件はアンテナショップのことだと思う。町長が(2 期目に)就任してから 2 年目くらいから始めたと思うが、なかなかうまくいかず最終的には撤退した。アンテナショップということで、確かにそこで販売するというのも大事だが、あさぎり町をPRしていこうというのも最終的な取組だった。あさぎり町も特産品という物がなくて、非常に苦慮した思いがある。アンテナショップを経営することにおいて、職員もそこに出向いて販売活動も行ったし、デパートにも出店させてもらったが、最終的には撤退した。という経緯がある。」

下田委員「ありがとうございました。道の駅という形で展開するのに反対するわけではないが、よほどの覚悟で取組まなければならないと思うので、みんなで知恵を出し合って、人吉球磨が一体となってPRできるような場があったら良いな、と私も思う。」

中村委員「山江村も以前取りかかってみたことがあるが、とにかく経費が掛かるということで、途中で諦めたことがある。今、テント 1 張りだけ使って地域の皆さんが農産物等を販売されている。上り線は人が多いから非常によく売れるが、下り線はガソリンスタンド跡で出店するという案があったが、人が少ないということで中止になった。上り線レストラン横に芝生があるが、そこに物産館を出店したらどうかという案が出たが、NEXCOがなかなか許可しない。あのテント 1 張りだけでもうるさく言う。売れない品物売っても採算が取れないらしいので、そこで大根・白菜を売っても利益にならない。また、レストランに売ってある物を売ったり、レストランより値段を安くしてはいけないらしい。人吉球磨で一緒にやるのであれば、『芝生の場所に何かを作ってやるのが良いのかな。』と思う。」

鳥越委員「これは道の駅と書いてあるが、物販のイメージかなと思う。やはりゴールデンウィークは人が多い。NEXCOとの交渉は、定住自立圏の中から出た意見として話を持って行くと、いち町村、いち業者で行くよりも、まとまって行った方が交渉し易いと思う。また、常設ではなく、スポットでも良いのでは？帰省客が多いときだけに入らせていただくとか。百貨店・デパート・イベント会場等での物販催事は経費が掛かるので、近くて、集客があってできるのは、良い場所だなと思うので、今後担当部署で検討されていくと思うが、とても良いアイデアだと思う。」

井田会長「今、各委員からありましたとおり、サービスエリアの充実として民間が多く入っているが、コンビニチェーンやスターバックスなどの、かなりの資本を持っているところでないと常設ではなかなか入りづらい。今あったように、常設で作るのはお金が掛かるので、定住自立圏で、人吉球磨全体で取組むということで交渉し、どれくらい経費が掛かるのかと算定してみて、大幅な赤字になるのであれば当然すべきではないが、そうでなければいいアイデアだと思うし、とりあえずスポットで参入してみて、それが上手くいけばNEXCO側も『もう少し出してみませんか？』となる可能性もあるので、非常にいい場所なのでいい案だと思う。ただ、6次産品に限るのか？それとも人吉球磨の産物も売るのか？を決めていくのが一つのポイントだと思う。各委員の意見をふまえて、前向きに進めていっていただければ良いと思う。」

■別紙①について

井田会長「観光政策をするのであれば、大事なのは地元の人が『うちは観光地と思っているかどうか？』だと思う。観光地と思っている地域は比較的続く。思っていない地域は、一過性はあるが続かない。いわゆるブームになってしまう。ブームで良ければ、何かすれば人は来るが、それが地域に10年20年貢献するかというと、ならない。圏外や全国的に見ても、観光地と呼ばれているところは誰かがやっぱり旗を振る。よく言われる“わか者・よそ者・ばか者”が揃ったら旗振り役になれると言われている。行政から出る必要はなく、人吉球磨で旗を振っている個人あるいは商品作りがあるかと思うので、そういった方々がジャンルは違っても結び付きを作っていって、小さくてもちよつとずつ大きくなっていくかが鍵だと思う。この方は『団体を作ってプロジェクトを展開していこう。』と言われているが、作ったからといって上手く行くわけでもない。県内どの自治体も観光をやっている。九州は使える資源がいっぱいあるので、知恵が大事なのかな、と思う。」

■別紙②について

鳥越委員「三つのことについて書いてあると思うが、公共交通については人吉球磨公共交通活性化協議会があつて、首長達が主になって担当の方たちで協議されていると思う。そこでこの意見は対応されれば良いかなと思うが、アンケートもかなりの費用をかけて調査をされているので、そのアンケートの内容と比較する必要があると思う。球磨川のことは環境の部署があるので、そちらで検討したり、産業遺産については、これも担当のところで協議すべきと思う。さっきの別紙①も、広域の観光課で今後検討されれば良い。あとはビジョンに取込むか取込まないかだけで、若しくはビジョンの中で同じようなことがあれば、初歩的なことは必要ないと思う。」

井田会長「それぞれの考えにはそれぞれ担当しているセクションがある。例えばコミュニティバスであれば、まずは行政区域内での計画になると思うが、行政区域間のコミュニティバスに連携を持たせるのか持たせないのかと対応すれば、何かしらの回答ができるのではないかと思う。観光についてもそういった担当セクションがあるので、そこが考えを出せばと思う。」

■別紙③について

竹原副会長「くま川下りのことでもいいか？くまがわマルシェは景観もよく、友達とよく食事に行くが、くま川下りが音楽も何もなく静かに下って行くから、何か音楽を流したらどうか？観光の目玉の一つなので。」

鳥越委員「取締役会議がある。賑々しく送り出した方が良いのか、小鳥のさえずりや川面を進む船の音を聞きながら行くのが良いか。それは主観の問題ではあるが、意見として伝えておく。」

井田会長「私も乗ったことがあるが、違う船の船頭は唄を歌うが、私の船の船頭は黙っていたのが気になったので、それも伝えておいて欲しい。」

白柿委員「三十三観音の活性化のところで、『開帳期間を増やしたら。』という意見だが、あさぎり町の深田地区ではこのくらい開いている。ほかの地域ではどうなっているのか？」

柳瀬委員「湯前町の宝陀寺観音(二十七番札所)は、春は彼岸の中日の1日、秋は1週間開いており、地域の方々が毎日入れ替わりのボランティアで接待していただいている。現状としては、高齢化に伴い秋の1週間はとても大変。今後、どうしようかと検討しているが、24戸から4~5人ずつ出て1週間としているが、都合が悪い場合は自分で代わりを見つけ、日当として2,000円払ってどうにかやっている。出て来た意見にあるように、日当などを貰えれば地域としても非常に助かるので、よろしくお願いします。」

中村委員「自然動物園の意見が出ているが、これができたらとんでもないことになる。田植えが終わったと思ったら鹿が苗を剪定したように食べて、猪は電牧の間から入ってきて、もち米が好きなのか、稲を混ぜてしまって後はどうにもなくなる。こういうのを作ってもらえば大変なことになる。結局、今、駆除してもらっている状態なので、これを保護してもらおうとなれば大変迷惑な話。」

堤委員「資料に日本遺産とあるが、球磨人吉に日本遺産というのがあるのか？あと、この連休中に人吉の旅館に中国人などの外国人の宿泊があったのか？」

下田委員「日本遺産に認定されたが、特定の文化財ということではなく、“人吉球磨が相良 700 年の歴史を持っていて、それに生活・文化・民族等が現在までも息づいて残っている”という物語が日本遺産になったということ。項目として青井阿蘇神社や青蓮寺や城泉寺や球磨焼酎などがあるが、項目に意味があるのではなく、ストーリーに意味があるということ。」

事務局「外国人の宿泊数は把握していない。」

鳥越委員「宿泊数は把握できないが、人吉温泉駅でずっと観光協会はお迎えしており、香港・台湾の方が多い。ゴールデンウィークだから多いというのではなくて、平日から多い。台湾は、熊本の県庁が頑張っていて、台湾の高雄市との直行便も飛ばしているなどの環境もあるが、特に増えている。ゴールデンウィークにはベルギーからもお見えになられていた。各旅館にヒアリングをすれば分かると思うが、協会で分かっているのはそんなところ。」

石松委員「宿泊数は分からないが、5日と6日にお客さんがおり、人吉球磨の宿泊施設に空きがあるか尋ねてみたが、ほとんど空いてなく満杯だったので、潤ったんだなと感じた。」

米本委員「SL(エスエル)は湯前線に乗り入れることはできるのか？できる・できないの問題ではなくて、実際にあの線路にSLを載せて走らせることができるのか？」

深水委員「もともとハチロク(SL)は湯前線を走っていた車両なので復元はできるだろう。問題なのは、湯前駅まで行ってどうやってUターンするか。転車台を作らないと、行ってもバックして帰ってくことになるので、そういった改修作業が必要。レール・橋梁の改修も行っているが、元々は走っていたものなのでできると思う。あと、法的なものになればJRとの協議が必要で、手続き的には不可能ではない。」

島巻委員「鹿や猪を公園化するの、私達も非常に困る。ただ、五木村は、特産品として鹿肉を使った加工品を売り出しており、そういうのを使って観光誘致したいと考えている。人吉球磨には市房山・白髪岳、高塚山などの九州山地があり、五木村にも高塚山や福寿草・山シャクヤクが有名な仰烏帽子があるので、このゴールデンウィークにはかなりの登山客があった。観光協会の窓口には、五木村の山だけでなく市房山や五家荘についての質問もかなり多い。そこで、今これだけ健康ブームがあり、登山人口というのはこれからも増え、減ることはないと思うので、各市町村で山の整備を行い、そこにどのような山野草があるのかといった情報を共有してもらい、どの施設でも答えられるようなガイドマップ的なものを作成してもらえば助かる。」

本山委員「石造り文化のPRの件。私はバラバラにあるからいいと思う。出掛けて行くのが良いのではないかと？1か所にまとめてしまうと、魅力が半減するのではないかと思う。」

柳瀬委員「湯前町でも、グリーンパレスの芝生のところで鹿を飼ったことがある。最初の頃はかわいくて見に行っていたが、大きくなると柵を飛び越えて、農作物を荒らして大きな被害が出た。山に行けば、鹿・猿・猪が多く、被害が増え続けている現状だと思う。日本遺産の話が出たが、城泉寺にもいろんな方がお見えになり、今度の連休にも東京から3名、神戸市から2名来られた。東京からは、前日にテレビ報道で日本遺産のことで知り、さっそく見に来たとのこと。PRを上手くやれば観光客はまだまだ増えると思う。広域行政組合や人吉温泉観光協会、自治体ももっと頑張らなくてはいけない。」

井田会長「これも多岐に亘った御意見が出ている。データを取ってきちんと整理しておくことは大事。あと、パンフレットなどの情報は市町村でそれぞれ作っていると思うが、圏域全体のものをジャンル別に分けて作るということも一つの案だと思う。担当セクションは、多くの御意見が出ているので知恵を絞って欲しい。」

■別紙④について

深水委員「パブリックコメントでいろいろ意見が出ているが、これをどう繋げるのか？幹事会や協議会に意見として出していくのだろうが、意見によっては中に入っているものもあるし、ジャンル別に分けるのか？集計するのか？など、どういった形を考えているのか？」

事務局「いろんな御意見が出ており、大変貴重な御意見と考えている。委員の皆様からの御意見も頂いており、あとの“今後のスケジュール”の中で説明するつもりであったが、そういった御意見を反映するためにも、27年度にも懇談会を開催していき、懇談の中で大きな分別を行い、それを町村や担当者に流し、短期的に取組めるもの、中期的なことで翌々年度に事業をあと延ばしさせていただくものといったことで、パブリックコメントや皆様からの意見をビジョンの中に溶け込ませていく、若しくは協定の変更が必要であれば、議会の議決も経た上で、ビジョンの改訂版を作成していくという作業に、次年度以降させていただければと考えている。」

深水委員「せっかくこういった回答があっているの、懇談会の意見として出されるのか分からないが、『こういった御意見が挙がって来た。』とか、とりあえずは上げていくべきだと思う。」

事務局「本日、この場で皆様方にパブリックコメントについて御説明したのは、委員の皆様から賜ったいろんな御意見を集約し、『ビジョン懇談会でこういった御助言を頂いた。』というものをまとめさせていただきたい。実行に移すのはまた次の段階なので、幹事会や推進協議会に『パブリックコメントに対してビジョン懇談会ではこういう御意見がありました。』ということで、御意見・アドバイスがあったというのを関連化した形で集計し、まとめた上で公表させていただきたい。その後どうするのか？というのは、後ほどスケジュールの方で説明させていただく。」

井田会長「パブリックコメントあるいはこれまでの懇談会で出てきた御意見・考えというのは、ビジョン

(案)の 51 ページにある各部会に落として、ビジョン(案)に更にブラッシュアップ(磨き上げ)ができる余地があるかどうか? 部会が検討して、実行可能かどうか? それによって上がってくるものと思っている。この懇談会で、それぞれの案について『こういった意見が出た。』といった部分で、事務局が言ったように、それらを集約して、各担当部会があるので、担当がない部分については新規についての議論が必要。幸いにも、この前出された意見については担当部会が恐らく全てあったと思われるので、そちらの方で再度、今年度、次年度といったステップで変更・微調整が必要かどうかという議論をしていくのだろうと思う。それらが逐次、懇談会に説明があるかどうかは今後の事務局の対応だと思う。」

(2) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)の修正及び最終確認について

鳥越委員「日本遺産認定の件だが、2 ページの沿革部にも入れて欲しい。今回が 10 市町村での認定でもあるので、沿革の最後の部分に平成 27 年 4 月に公表と入れて欲しい。それと、内容と関係ないが、事前に資料を配布し、『読んでから参加してください。』とあるので、皆さん読まれていると思う。わざわざ説明する必要はないと思う。」

事務局「ありがとうございます。」

井田会長「34 ページの“CO2”は、行政文書でどうするのか分からないが、通常、化学の“2”は下付きの“2”である。各委員の皆様、共生ビジョン(案)について最終確認していただいて、もし修正等がなければ、この場において御承認いただければと思う。」

【発言なし】

井田会長「それでは、人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)を御承認いただいたということでよろしいか？」

【一同「はい」の声】

井田会長「ありがとうございます。ただ今、御承認いただきました共生ビジョンはスタートライン。これで終わったわけではなくスタート台に立ったということ。今後、各事業がどのように展開していくのか、厳しい視点でチェックしていただければと思う。また、関係機関においても、10 市町村で共通の事務に取り組むということで、推進協議会・各部会において、忌憚なく、共同歩調で事業が進められるようお願いしたい。」

(3) 今後のスケジュールについて

【資料②により説明】

深水委員「日本遺産の認定と、定住自立圏の取組の今後のあり方・進め方はどうなるのか？」

事務局「先ほど申し上げたが、新たな協議会を立ち上げられ、そちらの方で事業を展開されていくということで、詳しい事業についてはまだ聞いていない。文化財の活用について各市町村から負担金を取りながら行うと聞いている。日本遺産に認定され、文化財関係の協議会が立ち上げられるが、国からもまとまった補助金があるので、そちらを基にしてホームページやパンフレットを作ったりという形で、人吉球磨の日本遺産を売り出していく活動を、早い時期からスタートしていくという感じになる。定住

自立圏では、全体的なメニューの中で項目として入れ込んでいくが、実際に動く分は一番の焦点となると思うので、そちらの協議会の方でどんどん進められていくという流れになる。」

井田会長「次年度以降も、このようなタイトなスケジュールを組まれているということで、第 1 回目での説明にもあったが、作って終わりではなく、作ってPDCAサイクルで 2 年目以降も循環していくので、ビジョンの進捗状況がどうなのか、改善余地があれば改善する。その意思決定をするのはこのビジョン懇談会の場になる。各部会で、それぞれの担当の事業についてチェックをして懇談会に上げてくる。それについて皆様が『プランどおり行っているのか？』、『行っていないのか？』あるいは『こういった要素を加味した方が良いのではないか？』などの御意見を賜りたい。資料にもあるように、議会への対応が必要な場合はその対応をしていただく。となっているので、次年度以降も、本日御承認いただいたビジョンがきちんと進んでいるかどうか？あるいは地域住民が『確かに人吉球磨が一体となって取り組んでいるな。』というのが見えているかどうか。見ていただければと思う。」

議事については以上。

5. 閉会

事務局「長時間に亘り、第 1 回目から第 5 回目まで、皆様の御協力を頂きまして、ビジョン(案)をお認めいただきありがとうございました。このビジョン(案)については 1 年目ということもあり、皆様方の御意見を直接反映することができませんでしたけれども、先ほどのスケジュールでお示ししましたとおり、2 年目以降に、皆様から頂きました御意見やパブリックコメントを反映させるような形で、7 月以降 5 回程度ビジョン懇談会を予定していますので、大変お忙しい中とは思いますが、また、委員の皆様の御協力を頂きまして、今後もビジョンを進めていきたいと思っておりますので、今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。これで第 5 回のビジョン懇談会を終了させていただきます。大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。」

以上、1 時間 51 分 58 秒